

新旧のバランスがよく取れた 熊本が大好きです。



◇ 熊本工大高等学校英語講師
ウイリアム・ホルトさん

プロフィール
米国ジョージア州アトランタ生まれ。1957年に海兵隊員として来日して以来、数年おきに米国と日本を往来。一昨年11月より熊本工大高の英語講師として来熊。本国での仕事は、ジョージア州少年審判所主任保護観察官。



通算十二年の日本滞在経験を持つウイリアム・ホルトさんは、大の日本びいき。奥さんの小夜子さんと一緒に結婚以来始めた武道は、計一五段というつわものぶりです。日本刀のコレクションや盆栽もいじるというホルトさんに、熊本の印象や学校生活について伺いました。

—武道は計一五段と伺いましたが、そ

の内訳は?また始めたきっかけを教えてください。

柔道四段、剣道二段、弓道一段、空手道三段、居合道二段、そして杖道が初段です。結婚して一年ほど経ったとき、たまたまテレビで「姿三四郎」を見ていた妻が、「あなたもやってみたら」と言つたのが始まりです。柔道、剣道



です。それに、日本の生徒たちはよく勉強しますね。米国ではSATという試験に受かれば全米のどこの大学にも入れるので、あまりハードな勉強はしません。ただ、大学のシステムは日本より厳しいので、一年で約半数の学生が辞めています。

高校生というのは、大人と子供の中間にいる非常に難しい時期です。大方の高校生は放つておいても大丈夫ですが、心配なのは二〇%位の子供たちですね。熊本城に行くと、一〇年前に亡くなつたその兄のことを思い出します。

—工大高で教壇に立たれて、日米の高校の違いをどうお感じですか。

そうですね、まず一番に感じたこと

—最後に熊本の印象や提言をお聞かせください。

熊本は古いものと新しいもののバランスがよく取れている所だと思います。近代的なテクノロジーと農業、文化がうまく共存している。二十一世紀への提言の中で細川知事がおつしやっているのも、このバランスのとれた都市づくりでしょう。東京のようにモダンなだけの都市にはなつてほしくないです。私は今の熊本が大好きです。焼酎はちょっと苦手ですが、辛子れんこんも馬刺しも納豆も好き。少しでも長く熊本にいたいと思っています。



をはじめ、多くの道で非常に眞面目で人格的にも尊敬できる良い先生と出会えたことは本当にラッキーでした。熊本にはそういう古い武術・武道がたくさんありますね。古武道のデモンストレーションを見たことがあります。ですが、流鏑馬や武藏の二刀流など大変興味深かったです。

—日本の本もよくお読みになつていらっしゃるとか…。

ええ、川端康成とかね。夏目漱石は全部読みました。もちろん英語でですが。小泉八雲の「東の国から」も愛読書の一つです。武蔵の「五輪書」も読みました。熊本で彼らの足跡をたどるのも私の楽しみです。

熊本には本当に古い歴史を感じさせ

る所がいっぱいありますね。加藤清正や細川家の歴史が残る熊本城や加藤神社・水前寺公園・八代城、それに松浜軒の菖蒲も見事です。なかでも、二〇年前、妻の兄の案内で初めて訪れた熊本城はとても気にはいっています。熊本のファイティングスピリットを感じました。熊本城に行くと、一〇年前に亡くなつたその兄のことを思い出します。

—工大高で教壇に立たれて、日米の高

校の違いをどうお感じですか。

そうですね、まず一番に感じたこと

は、先生と保護者のコミュニケーションがよくとれています。生徒を見守っているということです。米国では、生徒は日本のように先生や保護者によって手厚く保護されてしまいません。ですから何かことが起これば、法律に基づいて裁判所や専門家が対処します。米国は自由システムというのでしょうか、社会のシステムが日本とは違うので、概にどちらが良いとは言えませんが、しかし、日本の学校の担任の先生は本当に一生懸命やつていらっしゃいますね。

私は週一、三回剣道部の練習に参加していますが、スポーツ部の先生と生徒のコミュニケーションには素晴らしいものを感じます。生徒は先生が何を求めているかをよく理解しているよう

です。それに、日本の生徒たちはよく勉強しますね。米国ではSATという試験に受かれば全米のどこの大学にも入れるので、あまりハードな勉強はしません。ただ、大学のシステムは日本より厳しいので、一年で約半数の学生が辞めています。

高校生というのは、大人と子供の中間にいる非常に難しい時期です。大方の高校生は放つておいても大丈夫ですが、心配なのは二〇%位の子供たちですね。彼女はロボットではないのですから、先生も社会も彼ら一人一人に手を差しのばさなければいけないと思いま

すね。



—工大高で教壇に立たれて、日米の高

校の違いをどうお感じですか。

そうですね、まず一番に感じたこと

は、先生と保護者のコミュニケーションがよくとれています。生徒を見守っているということです。米国では、生徒は日本のように先生や保護者によって手厚く保護されてしまいません。ですから何かことが起これば、法律に基づいて裁判所や専門家が対処します。米国は自由システムというのでしょうか、社会のシステムが日本とは違うので、概にどちらが良いとは言えませんが、しかし、日本の学校の担任の先生は本当に一生懸命やつていらっしゃいますね。

私は週一、三回剣道部の練習に参加していますが、スポーツ部の先生と生徒のコミュニケーションには素晴らしいものを感じます。生徒は先生が何を求めているかをよく理解しているよう

です。それに、日本の生徒たちはよく勉強しますね。米国ではSATという試験に受かれば全米のどこの大学にも入れるので、あまりハードな勉強はしません。ただ、大学のシステムは日本より厳しいので、一年で約半数の学生が辞めています。

高校生というのは、大人と子供の中間にいる非常に難しい時期です。大方の高校生は放つておいても大丈夫ですが、心配なのは二〇%位の子供たちですね。彼女はロボットではないのですから、先生も社会も彼ら一人一人に手を差しのばさなければいけないと思いま

すね。